

令和4年度 学力向上プラン

学校名 中央区立有馬小学校

学校の教育目標

自ら学ぶ子・思いやりのある子・心とからだの健康な子

教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

- ①基礎的・基本的な「知識及び技能」の習得と「思考力、判断力、表現力等」・「学びに向かう力、人間性等」をバランス良く育成し、学力の定着を目指す。
- ・算数習熟度別少人数指導の充実 ・理科の実験・観察を基にした考察の充実 ・個に応じた指導の充実
- ②「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る。
- ・学び合いのある授業づくり ・言語活動の充実
- ③ICT機器を活用した指導の充実を図る。
- ・課題解決能力、情報処理能力を培うためのICT機器を活用した授業づくり ・ドリルソフトの活用

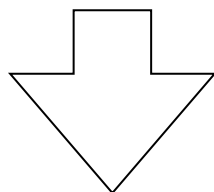
令和3年度「学習力サポートテスト」や令和3年度学力向上プランの検証結果、学校評価の結果等によって明らかになった課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国語	<p>「書く能力」については、学習力サポートテストにおいて、6年2.1ポイント、5年0.1ポイント、4年6.7ポイント区平均値を上回っており、多くの児童が目的や意図に応じて文章を書くことができている。「言語についての知識及び技能・技能」については、学習力サポートテストにおいて、6年1.4ポイント、5年0.1ポイント区平均値を下回っており、学年によっては他の領域に比べると漢字や言葉の働きなど言語に関する知識に課題がある。</p> <p>「令和4年度学習力サポートテスト」の「書く能力」について、6年生16.4ポイント、5年生12.2ポイント、4年生14.4ポイント区平均値を上回っている。「言語の特徴や使い方に関する事項」では、6年生3.4ポイント、5年生2.5ポイント、4年生3.9ポイント、区平均値を上回ることができた。</p>	<p>日常生活において、言葉の意味について調べたり活用したりする機会が少ないことや、知っている言葉を使って書く習慣が身に付いていないことなどが要因の一つと考えられる。</p> <p>国語辞典を手元におき、語彙力の向上を図ってきた。漢字の反復学習では、タブレット端末を活用し、定着を図っている。また、今後は、長文を最後まで粘り強く読み続けられるよう読書指導にも力を入れていく。</p>
算数	<p>「数量や図形についての技能」に関しては、学習力サポートテストにおいて、5、6年は区平均値程度、4年は2.1ポイント区平均値を上回っており、多くの児童が正確に計算することはできている。「数学的な考え方」に関しては、学習力サポートテストにおいて、6年1.8ポイント、5年0.9ポイント区平均値を下回っており、学年によっては、情報を読み取り、それを根拠として問題解決することに課題がある。</p> <p>「令和4年度学習力サポートテスト」の「知識・技能」にお</p>	<p>課題解決に向け既習事項を活用して自分の考えをまとめたり、考えを発表し全体で共有したりする機会が不足していることが要因の一つと考えられる。</p> <p>6年生の「数と計算」では、</p>

	<p>いて、5年生は、区平均値程度、4・6年生は区平均値をやや下回る結果となった。特に、4年生は「図形」と「測定」で、6年生は「数と計算」で区平均値を下回った。5年生はどの領域でも区平均値を上回る結果となった。</p>	<p>小数や分数の計算において、課題が見られる。4年生の「図形」では、コンパスの使い方だけではなく、円や三角形の性質を関連付け、指導を重ねていく。「測定」では、量感を身に付けていないことが課題としてあげられる。基礎基本の定着を図るため、タブレット端末の活用やステップアップ教室への参加を促し、指導を行っていく。</p>
<p>社 会</p>	<p>「社会的事象についての知識・理解」に関しては、学習力サポートテストにおいて、5、6年は区平均値程度、4年は3.8ポイント区平均値を上回っており、世界の主な大陸の名称と位置や日本の主な工業地帯・工業地域等、社会の基本的な用語を理解することができている。「観察・資料活用の技能」に関しては、学習力サポートテストにおいて、6年0.9ポイント、5年1.5ポイント区平均値を下回っており、水産業の資料から考えることや地図等の資料から情報を読み取ることに課題がある。</p> <p>「令和4年度学習力サポートテスト」の「知識・技能」においては、4、6年が区平均値を3ポイント以上上回ることができ、5年は区平均値程度であった。領域別にみると5年生の「自然災害からくらしを守る活動」で、区平均値より1.6ポイント下回る結果となった。</p>	<p>地図やグラフ等の資料から情報を読み取る活動が不足していることや、社会科に関する知識が児童の日常生活と結び付いていないことが要因の一つと考えられる。</p> <p>自然災害やそれに伴う防災訓練の必要性等について、自分事として捉えることができている。体験活動や調べ学習を通じ、自分事として捉え問題意識をもたせるような授業改善を図っていく。</p>
<p>理 科</p>	<p>「自然事象についての知識・理解」に関しては、学習力サポートテストにおいて、6年0.4ポイント、4年5ポイント区平均値を上回り、5年1.9ポイント区平均値を下回っており、名称、器具の扱い方や、用語などの知識が身につけているが、植物の花のつくりと実や魚のたんじょう等の理解に課題がある。「観察・実験の技能」に関しては、学習力サポートテストにおいて、6年0.2ポイント区平均値を下回っており、学年によって、動植物や自然事象の観察をもとに考察することに課題がある。</p> <p>「令和4年度学習力サポートテスト」では、どの学年も区平均値を大きく上回る結果となった。とくに、「知識・技能」においては、4年生5.9ポイント、5年生5.5ポイント、6年生6ポイント上回ることができた。</p>	<p>自然が身近に感じることに不足しているため実感を持った学習が難しいことや、学習した知識を日常生活と結び付け、活用する機会が不足していることが要因の一つと考えられる。</p> <p>児童が実感を持った学習ができるよう、タブレット端末を活用し、動植物等の自然事象について、継続的に観察することができた。今後も、タブレット端末を効</p>

		果的に活用していく。
英 語	<p>A L T と担任が相談して作成したレッスンプランを基に、発音を繰り返す活動や学習したことを基に発表する活動の時間を確保していることで、「聞くこと」「読むこと」「話すこと（発表）」については、英語の特徴や決まりに関する事項を理解することができている。しかし、「話すこと（やりとり）」「書くこと」については課題がある。</p> <p>「令和4年度学習力サポートテスト」では、区平均値をやや下回る結果となっている。アルファベットの読み書きやそれを基にした英作文、日常会話による聞き取りに課題がある。</p>	<p>繰り返し英単語を書くなど、書く技能を身に付けるための時間が不足していることや、アクティビティが効果的なタイミングで実施されていないことが要因の一つである。</p> <p>聞いたり、発話したりする慣れ親しむ活動が十分でないことや大文字と小文字を区別してアルファベットを書く時間を十分に確保できていないことが要因と考えられる。</p>
体 育	<p>臨時休業中、夏季及び冬季休業中に運動取組カードを活用して体力向上に取り組んだことで、制限された活動の中であったが、体力テストの結果、多くの種目で昨年度と同様の結果となった。「握力」は、3年男子1ポイント、5年男子1.8ポイント、5年女子2.2ポイント等、6年男子以外のすべての項目で都の平均を下回っており課題である。「20mシャトルラン」や「ソフトボール投げ」等は、日常的な運動経験の個人差も大きい傾向にあり課題がある。</p> <p>「令和4年度 東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査」では、全学年、男女ともに「握力」「ソフトボール投げ」で区や都の平均を下回っている。また、1年、2年、4年、5年、6年の男子、1年、2年、4年、5年の女子の「20m シャトルラン」では、全国の平均を下回っている。また、1年生は多くの種目で区、都、全国の平均を下回る結果となっている。</p>	<p>個々の目標値を伝えることで、記録の向上に繋がることもあったが、体育朝会等が実施できなかったこともあり、「握力」に関する取組が行えなかったことが要因の一つと考えられる。</p> <p>今年度は、体力テストに向けての練習時間を十分に確保することができなかった。また、普段から「握力」や「ソフトボール投げ」につながるに運動を日常的に取り入れていく必要がある。</p>
学力向上に向けた視点		年度末までの目標及び指標
① 各教科	国語	<p>「令和4年度学習力サポートテスト」の全ての実施学年で、それぞれ区平均点を5ポイント上回るようにする。</p> <p>「令和5年度学習力サポートテスト」の全ての実施学年で、それぞれ区平均点を4ポイント上回るようにする。</p>
	算数	<p>「令和4年度学習力サポートテスト」の全ての実施学年で、それぞれ区平均点を3ポイント上回るようにする。</p> <p>「令和5年度学習力サポートテスト」の全ての実施学年で、それぞれ区平均点を3ポイント上回るようにする。</p>
	社会	<p>「令和4年度学習力サポートテスト」の全ての実施学年で、それぞれ区平均点を5ポイント上回るようにする。</p> <p>「令和5年度学習力サポートテスト」の全ての実施学年で、それぞれ区平均点を4ポイント上回るようにする。</p>

	理科	<p>「令和4年度学習力サポートテスト」の全ての実施学年で、それぞれ区平均点を4ポイント上回るようにする。</p> <p>「令和5年度学習力サポートテスト」の全ての実施学年で、それぞれ区平均点を5ポイント上回るようにする。</p>
	英語	<p>評価に使用するワークテストにおいて、すべての実施学年で平均90%を上回るようにする。</p> <p>「令和5年度学習力サポートテスト」の全ての実施学年で、それぞれ区平均点を2ポイント上回るようにする。</p>
	体育	<p>令和4年度体力調査のすべての実施学年で、体力調査で各項目平均0.5ポイント上昇を目指す。</p> <p>令和5年度体力調査のすべての実施学年で、体力調査で各項目平均0.5ポイント上昇を目指す。</p>
②授業改善		<p>各教科等の「見方・考え方」を全教師が理解(100%)し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善を行う。また、指導計画に基づき、すべての単元(100%)で意図的に「学び合い」の場、自分の考えをより深く考察する場を設定する。また、児童の主体的な学習態度を育てるために、全学年においてタブレット端末を一日1時間使用し、その中でより効果的な活用方法を校内で検討し、授業改善につなげる。</p>
③家庭との連携		<p>学校公開、保護者会、学校便り、ホームページ、Google Classroom等を活用し、積極的に情報を発信し教育活動の理解を図る。年2回の児童・保護者による学校評価アンケートを実施し、教育活動の改善を図るとともに、学校からの家庭への情報発信への肯定度を85%にする。</p>
④体力向上		<p>マイスクールスポーツについて、全児童が休み時間や朝の時間に一定期間の共通した取組を行い、特色ある教育の推進を図る。全児童が長期休業中に、「体力アップの運動」に取り組み、体力向上へ繋げていく。体力調査では各項目平均0.5ポイント上昇を目指す。</p>



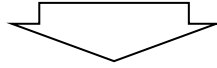
【目標達成のための具体的な取組内容】

①各教科	
国語	<ul style="list-style-type: none">・学習で出てきた文章を丁寧に読み取る機会を作り、文章の内容を正しく読み取ることができるようにする。また、問われていることに対して、どのように答えるべきか、演習を重ねる。・漢字ドリルやミニテスト等を行い、反復練習を行うことで、へんやつくりなどを正しく覚えられるようにする。また、文章を書く際には、これまでに学習した漢字を正しく使うように指導するとともに、辞書を手元に置き、分からない言葉や漢字は自分で調べる習慣をつけさせる。・タブレット端末のドリルソフトを活用し、習熟を図る。
算数	<ul style="list-style-type: none">・単元に入る前に、既習事項を確認した上で、課題に取り組みさせていく。また、演算決定の際、図や数直線を活用する場面を設定していく。数直線の見方やとらえ方についても指導していく。・東京ベーシック・ドリルの診断テストを活用して児童の課題を明確にし、算数ステップアップ教室で補習することで既習した学習の習熟を図る。・タブレット端末のドリルソフトを活用し、習熟を図る。
社会	<ul style="list-style-type: none">・導入では、社会的事象から課題をつかみ学習問題を立て、その解決のために教科書や資料集の資料を活用し、一つの資料から、さまざまな情報を読み取る活動をし、そこから考えられることを話し合う学習展開を取り入れる。・多くの情報を取捨選択し、整理してまとめる活動を通して、学習内容を自分の言葉で説明や表現ができるようにする。・タブレット端末のドリルソフトを活用し、習熟を図る。
理科	<ul style="list-style-type: none">・学習問題に対して、予想や実験方法を考える場面を丁寧に扱い、一人一人が実験器具を操作できる場を意図的に設定する。・実験結果の考察を具体的に書かせることで、実験方法と結果を結び付け、結論を自分なりに表現し、知識の定着を図っていく。・タブレット端末を活用し、植物の観察等を継続的に行い、一年間の様子が分かるようにしていく。・タブレット端末のドリルソフトを活用し、習熟を図る。
英語	<ul style="list-style-type: none">・ALTとのコミュニケーションを取り入れた授業を展開することで、それぞれの場面の受け答えについてより深く理解できるようにしていく。・学習したことを生かす場として、ALTと児童の1対1のアセスメントテストを実施する。・アルファベットを正しく書く時間を定期的に取り入れ、大文字と小文字の違いの定着を図る。
体育	<ul style="list-style-type: none">・昨年度の体力調査の結果を分析したものを学年で共通理解し、意図的・計画的に苦手な分野を強化する運動を取り入れる。(特に、握力やソフトボール投げにつながる運動)・児童に昨年度の記録から明確な目標を立て運動に取り組みさせることでより高い意識で取り組むようにする。・体育授業の準備運動の中で、継続して柔軟運動や握力の運動に取り組んだり、学校行事と連携させ目標を明確にした長縄跳び、短縄跳びに取り組んだりすることで、基礎体力向上を図る。

②授業改善	
取組Ⅰ	<p>主体的・対話的で深い学びを通しての授業づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 各教科等の授業の中で言語活動を充実させるとともに、「学び合い」の時間を位置付け、発表、対話、討論、話し合い等を意図的・計画的に発達段階に応じて取り入れる。特に、生活科や理科の学習では、理科の実験・観察を基にした考察の充実を図るため、継続的な観察活動を実施するとともに、観察・実験結果からより深く考察するための学び合いの場を意図的に設定する。
取組Ⅱ	<p>基礎的・基本的な学力の定着の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> 算数科では、1・2年生は担任と都講師で学級数+1グループ、3～6年生は担任と少人数指導教員、区講師2名により、3学級の学年は6展開、4学級の学年は2学級ずつ4展開とし、全学年習熟度別少人数指導を行う。 タブレット端末等のICT機器を効果的に活用して児童の主体的な学習を促し、個に応じた指導につなげていく。また、ドリルソフトを活用して学習の定着を図る。

③家庭との連携	
取組Ⅰ	<p>家庭への情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校便りや学年便り、個人面談、保護者会等を活用し、積極的に情報発信を行う。また、発信に当たってはGoogle Classroomを活用して情報発信を行う。 保護者会等で、目指す児童像を示すとともに、学習の定着に向けた家庭学習への取組についての理解を求める。
取組Ⅱ	<p>学校アンケートの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校公開時のアンケートによる授業評価、年2回の児童・保護者による学校評価アンケートを実施する。 保護者からの要望・改善点等を早期解決し、信頼関係を構築する。

④体力向上	
取組Ⅰ	<p>マイスクールスポーツの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内持久走大会（ARIMA RUN）に向けて、体育の授業及び休み時間に時間走を全校で取り組む。 縄跳びカードを全校共通で年間を通して取り組む。
取組Ⅱ	<p>体育授業の充実と継続的な体力アップを目指した取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 体力調査の結果を基に、体力向上に関する運動例から各学級の実態に合わせて授業で継続的に取り組む。 長期休業中に、全校共通で「柔軟性を高める運動」、「体幹を鍛える運動」、「短縄跳び」、「持久走」の4項目のカードを使って運動に日常的に取り組む。



学力向上に向けた視点		取組の成果	取組の課題及び解決策
①学力基盤	国語		
	算数・数学		
	社会		
	理科		
	英語		
	体育・保健体育		

【取組結果の検証】

②授業改善		
③家庭との連携		
④体力向上		